

このたびの東日本大震災により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地で、救援活動・子育て支援活動に力を尽くしていらっしゃる皆様に敬意を表します。私たちひろば全協としても、在宅で子育てしていた子育て家庭の皆様方の支援について、全国の会員とともに東日本大震災義援金活動を行い、会員団体を通じて支援を届けております。一日も早く復旧・復興が進むことを心より願っております。

●震災を通じて感じたこと●

1. 子育て分野は後回し

高齢者介護など制度としてシステムがあり、支援の手が全国から差し伸べられた。

2. 保育所は貴重な役割を果たした

日ごろの訓練を糧に、子どもたちを守り抜いた。子どもの拠り所となるだけでなく就労する親の安心に貢献した。親にとっては、震災後も安心して活動出来る支えとなった。

3. 未就園児をもつ家庭支援の脆弱さ

- ・未就園児童のいる家庭は把握がむずかしい
- ・地域への所属感のなさ → 寄る辺ない人たち
- ・親と常に一緒にいることは、安心であるとともに親の不安がダイレクトに伝わる。遊びに集中できない。見なくてもいいものを見せられる。
- ・震災後は、親にとっては活動の制限に。安心して預かってくれるシステムがない。結果として、実家に帰るなど地元を離れる。
- ・福島では、夫は残り、妻子は遠く離れた実家へ。土地を離れた後ろめたさと家族分離の負担。福島に残った子育て家庭は、土地を離れる選択ができないことへの自己嫌悪子どもへの影響を懸念。

4. 全国から応援の声

ひろば全協でも、全国の 100 以上の団体・個人が義援金活動に参加。延25団体に 283万円をお送りしました。同じ境遇の子育て家庭に早く支援を届けたいとの思い。靴下・下着など衣服から、絵本、おもちゃ、義援金、活動支援金とつないできた。

●提 案●

震災復興とともに、このような時だからこそ子ども・子育て支援分野にシステムが必要である。一刻も早く、子どもの発達支援、子育て家庭を応援する仕組みを作らなくてはならない。

新システムもモデル実施を、被災地域からはじめてはどうか？

具体的には、避難施設等での、「こども園(仮称)」、「多世代交流型地域子育て支援拠点(仮称)」の実施。両親をなくし親戚などが世話をしている子どもたちについても、両施設が役割を果たせるよう、また多世代交流型地域子育て支援拠点では、多様な世代が相互に連携・協力しながら、子どもとお年寄りの世話ができるような仕組みを構築し、孤立させない。また、働き手にとっては就労支援となるような仕組みとする。